

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1247
施設名	阿佐ヶ谷たいよう保育園
施設所在地	東京都杉並区阿佐谷南1-48-5み空ビル
法人名	社会福祉法人まあれ愛恵会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

形、色、音と運動

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

ビルの2、3Fにある園で園庭がなく、一日のうち、室内で過ごす時間が極めて長い。狭い室内だと遊びも小さく、全身運動の機会も少ない。そのため、たくさんの廃材や大型積み木などを室内に用意することで、子ども達が自由に遊ぶ中でも、よりダイナミックな遊びへと繋がり、色々な形を組み合わせて、小さなものから大きなものへと自ら環境を変化させていく楽しさを感じてほしかった。また、色や音への

2. 活動スケジュール

令和6年9月：園で廃材を集める・各家庭から募る。

10月：廃材で自由に遊ぶ。

11月：クラス全体で1つの大作品を作る。

12月：子ども達が自ら遊びを発展させていく過程を観察する。

1～2月：大型マットを購入し、室内遊びに取り入れる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

園や家庭から廃材を募った。(大きめの容器など)

普段から自由に使えるような場所に置いておく。

自分が組み立てたものに乗ってみたりすることもできるよう、大型のマットを購入。

ダイナミックな動きも可能なように、室内環境を整理する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

空き箱、空き容器をたくさん積み重ねたり、様々な見立てをしながら自由に遊び、形の特徴を無意識的に学んでいく。接着剤などを用いて製作に使うこともある。はじめは個々に自由に遊びを楽しみながら、状況を見て複数人での大掛かりな作品に取り組んでみる。（家など）廃材では自分達の体を乗せて遊ぶことは難しいため、大型積み木や上にのることのできる運動遊具を用意し、更にダイナミックな遊びができるようにする。今年度は職員との振り返りを元に大型積み木ではなく、マットや平均台を購入し、子どもたちが色々な感触の玩具の上のぼる体験をつむこととした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

大きめの空き容器などを用意したが、普段からそういう物を用いた遊びをしていないため、はさみを持ち出したりして細かい製作を始める子の姿が目立った。保育者が空き箱を積んで遊び始めると、少しずつ遊びが発展していった。多くの廃材が集まってきたところで、自然と3つほどのグループに分かれて共同作品を作ったり、遊びに大きな動作が生まれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもたちから積極的に音楽WSへの期待の声が聞かれた。当初は大きな音が苦手と感じていた子も、回数を重ねるごとに、自信をもってリズムを刻んでいた。太鼓の大きさや形と音の違いに子どもたちから気付き興味深そうにしていた。廃材遊びと運動遊びをそれぞれ行い、子どもたちが主体的に活動していたが、それを連動する時間がもう少しあった方が良かった。